

東急東横線ほかで交通広告(イベントカー)を展開中！

学生募集力強化プロジェクトの一環として、交通広告(イベントカー)＝写真＝が、10月15日から東急東横線ほかで展開されている。運行本数は、1日平均2～7往復。中吊り、まど上、ドア横など路線によって形態は異なる。路線、期間は次のとおり。

- 東急東横線(みなとみらい線含む)、東急田園都市線、東急バス＝10/15～30
- 西武池袋線、西武新宿線、東武東上線、小田急線＝11/1～15

※クリックでPDFファイルが立ち上がり、拡大してご覧いただくことができます。



経営学部マーケティング特殊講義「食をめぐる流通ビジネス」

講師としてOBが協力

経営学部マーケティング特殊講義(田口冬樹教授担当)の後期授業「食をめぐる流通ビジネスの発展と戦略」が昨年につき、開講されている。(社)日本セルフ・サービス協会の提供のこの講座では、最近関心の高い、食の安全・安心・経営の信頼性などを含む食の企画開発、生産、マーケティングをテーマに、第一線で活躍する講師のさまざまな分析と食ビジネスに対する思いを語ってもらう。校友会の流通研究OB会からも支援を受け、OBが講師として、経験を伝える。

10月3日は開講セレモニーで坂上和也・流通研究OB会会長(サカガミ代表取締役社長=昭45経済)があいさつした後、同協会の三浦正樹専務理事(昭48法)が「To get a good job」を講義し、自身の職業観を熱く語った。

ほかのOB講師は、11月7日=植竹豊氏(北欧トーキョー代表取締役社長=昭45経済)「小売業における今後の方向性」、14日=新村均氏(リタ事業協同組合代表理事=昭46経済)&長岡秀貴氏(侍学園校長)「フリースクールの経営」、21日=藤田秀一氏(国分・首都圏第三支社支社長=昭52経営)「卸の現状と課題」、12月12日=鈴木正敏氏(日本アクセス広域営業本部広域営業第1部長=昭49経営)「食品流通業の今日・明日」



坂上和也氏



三浦正樹氏

教育学会第55回大会

生田10号館で開催

教育学会(会員数1803人)の第55回大会が11月23日、生田キャンパス10号館を会場に開かれる。「都立高校改革」などの全体会のほか、神田学生相談室の森美保子カウンセラーによる講演「学校現場における信頼関係とネットワークの構築」が14時10分から行われる。講演は一般の聴講も可能。問い合わせは学務課電話044(911)1253まで。

箱根駅伝シンポに加藤覚監督が登場

加藤覚陸上競技部監督(昭59商)が、恵比寿ガーデンプレイスで11月17日に行われる箱根駅伝シンポ「シード権の壁～予選会から栄光を目指して」のパネルディスカッションに登場する。

問合わせ：読売新聞スポーツ事業部
電話：03-5159-5880

「専大校友を訪ねて」

中越沖地震からの産業復興を目指す

「まだまだっ！ 柏崎プロジェクト会議」会長・柏崎青年会議所理事長
矢嶋 博生(やじま ひろお)さん(平5商)

新潟県中越沖地震から3カ月。柏崎市内の若手経営者らの団体「柏崎青年会議所(以後、柏崎JC)」理事長として、産業界復興を目指すプロジェクトを立ちあげた。

「自分たちの街を自分たちの手でなんとかしたい。産業界が元気にならなければ、真の復興とは言えません。復興へのモチベーションの維持向上が目的です」と話す。

支援の輪を広げる復興シール、ステッカー、のぼりなどのツールを利用してもらうことで「意識向上↓風化防止↓復興支援↓意識向上」のサイクルを作る。売上金の一部は、復興事業資金・義援金として活用される。「まだまだ、こんな震災には負けない」、「産業復興は、まだまだこんなものじゃない」という思いをスローガンに込めた。

全国から延べ2万人のボランティアが駆けつけてくれた。「神戸、小千谷、能登などの被災体験のある方々が『お互い様だから』と猛暑の中、快く活動してくれました。決して押しつけず、被災者の気持ちをくんで、必要なことだけ助けてくれる。そんな姿勢と『人とのつながりの大切さ』を学びました」。

自身も避難所でボランティアのまとめ役として活動。K-1の選手らが炊き出しの手伝いに来てくれた時には、「海の街・柏崎をアピールする絶好のチャンス」と、急きよ、海岸での炊き出しに変更した。「準備期間が短い中、『とにかくやるだけ』と強行しましたが、多くの方々に喜んでいただき、達成感がありました」と振り返る。

柏崎JCでは、さまざまな業種の会員がいる強みを生かし、キャリア教育をテーマにした中学での総合学習に協力。仕事の面白さや厳しさを伝える事業も行っている。「地域を担っていく子どもたちに、先輩として『社会』というものを教えたい」と今後も継続していく。

来月には市内の大学で、市民にも開放される「地域振興論」のリレー講師を担当する。テーマは「地域興しと若い力」。「学生時代はアルバイト三昧(ざんまい)でした」と笑うが、体験してきた「若いからこそ『街のために』できること」を学生たちに伝えるつもりだ。



◀校友の本 紹介▶

栗井脩介作品、続々映画化 待望の新作は『ビター・ブラッド』

『栄光一途』でデビュー以来、一作ごとに新境地を開き、ファンを増やしているミステリーの俊英、栗井脩介さん(平3文)の作品が続々と映画化されている。初の恋愛小説として挑んだ『クローズド・ノート』は沢尻エリカ主演で話題をまき、全国で公開中。



またベストセラー『犯人に告ぐ』は、10月27日から全国ロードショーの予定。同作品は、緻密な構成と大胆な着想で「劇場型捜査」が編み出され、高い評価を受けた。週刊文春2004ミステリーベストテン第1位、大藪春彦賞などに輝いた栗井さんの代表作。映画では豊川悦司が主演している。

今夏には待望の新作ミステリー『ビター・ブラッド』(幻冬舎・本体1700円+税)が発行された。

「銀座並木座」の映画プログラムを一冊に—嵩元 友子さん

半世紀にわたって邦画ファンに愛された東京「銀座並木座」。観客に無料で配られたプログラム「NAMIKI-ZA Weekly」の創刊号から100号までが復刻されて本にまとまった。



同館に通いつめたフリーライターの高元友子さん(平3文、『銀座並木座 日本映画とともに歩んだ四十五年』著者)が、初代支配人の夫人から現物を譲り受けた貴重な資料だ。小津安二郎、高峰秀子、池部良らが描いた画とエッセー、黒澤明の「絵コンテ」……。日本映画黄金時代を支えた映画人が表紙を飾るファン垂涎のプログラム集。

11月25日まで「ハウス オブ シセイドウ」で開催中の展示会「スクリーンのなかの銀座」では、プログラムの現物が展示されている。『復刻版 銀座並木座ウィークリー』は嵩元友子ほか編。三交社・本体3800円+税。